

WEEKLY SIGNAL

2020年6月5日(金) 1527号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想					
	6/8(月)	6/9(火)	6/10(水)	6/11(木)	6/12(金)
無担保O/N			△ 0.087%	△ 0.001%	
銀行券	+ 300	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000
財政他	△ 39,400	+ 11,000	△ 4,000	+ 1,000	△ 7,000
資金需給	△ 39,100	+ 11,000	△ 4,000	+ 1,000	△ 8,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)		国庫短期証券発行・償還(6M)		源泉税揚げ 交付税特会借入・償還
オペ期日	CP等買入 補完供給 △ 200 + 300				米ドル補完供給 被災地支援 + 9,300 △ 900
オペスタート	国債買入 + 10,900	CP等買入 + 6,000			
(日本)	GDP(1Q) 貿易収支(4月)	毎月勤労統計(4月)	国内企業物価指数前月比(5月)		営業毎旬報告(6月10日現在) 鉱工業生産(4月、前月比)
(海外)	世界銀行、世界経済見通しに 関する報告書 ECB総裁、欧州議会 公聴会に出席	EU財務相理事会(テレビ会議) OPEC総会(テレビ会議) 米 FOMC(10日まで) 米 求人件数(4月) 米 卸売在庫(4月) ユーロ圏 GDP(1Q)	米 FOMC声明発表、 議長記者会見と経済予測 米 CPI(5月) 米 財政収支(5月) OECD経済見通し OPECプラス会合(テレビ会議)	ユーログループ 米 新規失業保険申請件数 (6日終了週) 米 PPI(5月)	米 輸入物価指数(5月) 米 シカゴ大学消費者 マインド指数(6月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.03 ～ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ～ 0.040
SPOT 3M	0.000 ～ 0.070
SPOT 6M	0.000 ～ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初420兆4,400億円から始まったものの、国庫短期証券・国債の発行や税揚げ等により減少し、416兆円9,900億円で越えた。無担保コールON物加重平均金利は週初△0.058%で始まり、3日には△0.068%まで低下した。その後は週末にかけて調達意欲が強まり、5日には△0.057%となった。ターム物は、1W～1Mの期間で、△0.070～△0.060%の出合が見られた。6月2日に実施された国庫短期証券買入オベのオファー額は3兆円と、前回オファー分(6月2日、オファー額2兆円、応札倍率2.09倍)から増額となった。応札倍率は1.65倍となり、前回対比で低下した。なお、同金額でのオファーは2016年10月7日以来約3年8か月振りだった。来週の主な予定はGDP(8日)、海外ではFOMC(9,10日)ユーログループ(11日)がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.01 ～ 0.00
TDB 3M	△0.140 ～ △0.095
現先(on/1w)	△0.04 ～ 0.00

＜C P＞

今週の入札発行総額は約4,800億円で、週間償還額(約1,800億円)を上回った。発行市場は、電気機器や鉄鋼業態等の大型案件が実施され、週を通して活況であった。発行残高は、先週末の24兆2,880億円から4日時点では約24兆5,510億円と増加した模様。発行レートは、浅いマイナス～0.03%近辺での出合いとなった。4日に、CP等買入オベが予定通り6,000億円で実施された。結果は、按分落札レート△0.017%・平均落札レート△0.005%と、前回(按分レート△0.027%・平均落札レート△0.020%)比で上昇した。来週の週間償還額は、約6,500億円となっている。発行市場は、5・10日発行での新規案件と鉄鋼業態等からの複数の大型案件が予定されているため、発行増が見込まれる。発行レートは、浅いマイナス～0%近辺の横ばい圏内の出合いを予想する。12日に、CP等買入オベが6,000億円でオファーされる予定となっている。

＜TDB＞

5日の3M912回債(9/7償還)の入札は、最高落札利回り△0.0922%(同△0.1002%)、平均落札利回り△0.0986%(同△0.1078%)となり、入札後△0.095%～△0.102%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは3M911回債(8/31償還)が△0.105%～△0.108%、6M910回債(11/25償還)は△0.195%～△0.196%、1Y908回債(5/20償還)が△0.200%で出合が見られた。また6月償還物で△0.130%、7月償還物で△0.150%での取引が散見された。

＜レボ＞

足許GC取引は週初△0.10%～△0.08%の出合いから始まり、週後半にかけても△0.10%前後の取引が続いた。国庫短期証券の発行があった週末の8日受渡しは、△0.09%台から始まり、一時△0.07%台の出合いも見られた。SC取引は2年409～413回債、5年137～143回債、10年336～358回債、20年168～172回債、30年59～66回債、40年12回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。